

一緒にがんばる

復興の助っ人たち

④8

震災で甚大な被害を受けた気仙沼市浦島地区を拠点に、発生源直後からボランティア活動を続けている。避難所運営から始まった支援も、現在は仮設住宅のコミュニティづくり、防災集団移転事業のサポートに至るまで多岐にわたる。

「浦島地区は住民同士のつながりをと学ばせてもらっています」と話す。

「四ヶ浜」と呼ばれる浦島の大浦、小々汐、梶ヶ浦、鶴ヶ浦地区は震災前、約240世帯あったが、大半が津波で被災し、現在は3割しか残っていない。平成30年度内に完成予定の大島架橋や三陸道のインターチェンジを見据え、地域の

でも大事にする地域。都会育ちの自分にとって、支え合って生きていくことの大切さを皆さんから

地域の魅力 全国へ発信

浦島地区でまちづくり支援

いわた 健一郎さん (31)

活力をもつ一度取り戻そうと、住民とともに地域資源の発

掘に力を入れてい

その一環として、

来月には昨春閉校した旧浦島小学校舎を活用し、地元の方や養殖体験などを絡めた初の観光ツアーを企画。住民の協力を得て、震災当時の様子や教訓を伝える語

に進めていけたら」と夢を膨らませる。

紛争地域などで苦しめられている人たちの力に少しでもなれたらと、大学卒業後、ボランティアの世界に飛び込んだ。震災前、国内のNGOやNPOに所属しながら各種支援活動を続けてきた。

「浦島は自分にとって第二の古里。復興する姿を住民の皆さんと一緒に見届けたい。そんな思いを強くしている。

感謝の言葉

浦島地区復興会長 小野寺光一さん

「震災直後からお世話になっており、住民みんな感謝の気持ちでいっぱいです。浦島にはなくてはならない人であり、今後ともよろしくお願いします」

毎週金曜日に掲載

南三陸町民 公開講座

きょう

「健康維持を目指して」をテーマにした南三陸町民公開講座は、24日午後2時から志津川保健センターで開かれる。

久留米大学医学部内科学講座心臓・血管内科部門が、町民の健康づくりの一助に」と企画したもので、この日は3人の医師が講演する。

テーマは、「日常生活活動量と心臓病」(同血管内科部門主任教授・福本義弘さん)、「睡眠時無呼吸と心臓病」(九州大学病院睡眠時無呼吸センター長・安藤真一さん)、「狭心症と生活習慣」(天神会新古賀病院名誉院長・福山尚哉さん)。

突破

ヤサづ

五来は携帯を耳にあな、独特のだみ声。ハの尾行をしている伊加ます、第一京浜を浦島中「風切り音がまじっ森署です、おお、寒い「はい、了解、風邪なり、水沢に教えてやるほかの捜査員たちに絡してから、焼鳥屋の煙にまじって、ぶんをくすぐらされる。立ちをのせた。客はいない「りえちゃん、小腹減「少し」遠慮がちに言「何にする?」「大丈夫ですか?」し

五来は適当に注文し、そうはいっても、水しく、出された二本を



名古屋出身。一橋大学(社会学部)卒業後、1年間、パレスチナなど30カ国を一人旅したこともある。震災後、NPO日本国際ボランティアセンター(JVC)のスタッフとして、気仙沼で支援活動を展開する。